

奥秩父金峰山及び瑞牆山ハイク

【報告者】Y川

【日時】2018年5月27日

【天候】快晴(やや霞がっている、微風)

【参加者】Y川(CL) M原(記録)

《コースタイム》

26日 20:15 富士山静岡空港にて合流 23:30 瑞牆山荘着

27日 04:10 起床 04:45 瑞牆山荘発 05:15 富士見平 07:40-08:20 金峰山

09:30 大日岩南側基部 10:00 八丁平 11:50-12:30 瑞牆山 14:00 瑞牆山荘着

《 報 告 》

ピナクル同期のM原氏がGW明けから6月下旬まで静岡県に出張している。そこで、今回はM原氏の出張先である静岡県御前崎をベースとして、奥秩父西部の金峰山(2599m)と瑞牆山(2230m)の日帰りハイキングを企画することとした。

【5月26日】

福岡空港18:40発のフジドリーム148便を利用して、静岡空港に20:15到着。空港で前原氏と合流し、東名・国道52号・中部縦貫道・中央道を経由して瑞牆山荘を目指す。途中、身延(注1)のコンビニで夜食を摂り、明日の行動食を購入。静岡空港から瑞牆山荘までカーブの少ない快適な道中、所要約3時間であった。瑞牆山荘周辺に駐車し、荷物整理の後就寝。

【5月27日】

5時起床のつもりだったが、4時過ぎに目を覚ます。さすが東の国は陽の昇りが早い。朝飯をサクッと済ませて瑞牆山荘を出発する。富士見平を経て大日岩までは単調な樹林帯の登りが続く。大日岩を越え、いくらか眺望が得られ、金峰山・瑞牆山・小川山・八ヶ岳・南アルプス北部(塩見岳～鋸岳)・富士山などが望める。快晴ではあるが、少し霞んでいる。心地よい風に吹かれながら、美しい樹林帯を緩やかに登ると、砂払ノ頭に出る。ここからハイマツ帯となるが、金峰山々頂までは右側(甲州側)がスパッと切れ落ちている。手頃にアルプスのような稜線歩きが楽しめるのはこの山の良いところである。金峰山々頂は登山者で溢れている、というほどでもないが、高校生や大学生の多さが印象に残る。山頂にある五丈石は一応登れるが、落ちたら骨折では済まない、今回は偵察のみとする。五丈石から山頂広場に戻ると、M原氏はドローン飛行の準備に移る。本日は風も弱く、絶好のフライト日和であろう。ハエのような飛行音が若干気になるが、素晴らしい動画が取れたそうだ。M原氏はこれをさらに編集し、某動画サイトにアップするという(注2)。

空撮を終え着陸態勢に入ったM原号(金峰山々頂)



40分ほど休憩の後、来た道を下り始める。計画書には富士見平まで戻って瑞牆山に登り返すと記したが、時間に余裕があること、道迷いのリスクや悪場も少ないことから、大日岩から八丁平を経由して瑞牆山へ登ることにした。大日岩南側基部からは大日岩を少し登りつつ、赤ペンキを追いながら大日岩の左側を巻く。少し迷路のような岩場の通過は本山行のアクセントと言えるだろう。大日岩ともう一つ大きな岩を左から巻くと、鬱蒼とした原生林の八丁平に着く。小川山への取り付き手前に富士見平への分岐がある。分岐を少し下ると穏やかな清流に出会う。この辺りにテントを張ると快適そう。ここからは沢の左岸(飯盛山側)を緩やかに下り、富士見平からの登山道に出会う。大日岩からここまでのルートは、エリアでは破線の表示だが、踏跡や赤テープは明瞭であり、特に困難さはない。むしろ、山行に変化を与えることができて有意義であった。

瑞牆山への登りは、岩場の弱点を突いて登山道が付けられているので良くも悪くも単調である。ルートはピークの南側なので風はない。陽も高くなってきて暑い。入道雲も出てきて、夏山の趣である。この登りはなかなかしんどいが、大ヤスリが見えてくると、山頂は近い。大ヤスリにはクライマーが取り付いているようだ。稜線に出て右に回り込むと山頂である。ここも登山者で賑わっているので、写真だけ撮って、西側ピークの隠しポイントへ移動する。この場所には登降路分岐点から西側に踏み跡を辿り、岩峰を巻くと辿り着ける。山頂よりも平坦な場所があり、西側の眺望が優れている(山頂からの景色はこの西側の岩峰に一部遮られる)。

そして、ここには我々以外誰もいないので、M原氏は思う存分ドローンを飛ばすことができる。M原氏はドローンの他にも、ジャイロスコープ内臓のブレない自撮り棒?のような、たぶん便利であろうグッズを持参していた。流行の最先端を駆ける男である。

40分ほど休憩の後、下山を開始する。昼13時になるが、まだまだ登山者が登ってくる。首都圏を早朝に発つと、富士見平に昼前に着くので、テントを張ってから瑞牆山往復、というのが定番の行動パターンである。富士見平小屋で土産物を物色するもイマイチである。瑞牆山荘までの最後の下りは少しペースダウンして、ゆっくり到着。今回の山行は山頂でゆっくりしたもの、やや速いペースで歩いたの

大日岩の巻きから瑞牆山を望む



瑞牆山西側ピークから大ヤスリを見下ろす



下降路から瑞牆山と金峰山の山頂を振り返る



で、遅くなることなく下山することができた。M 原号に戻って荷物整理をし、瑞牆山荘でコーラを飲み、増富温泉に向けて出発する。

増富温泉はラジウム温泉として有名らしい。町興し施設を兼ねた立ち寄り湯(増富の湯)に入って汗を流す。打ち上げは蕪崎の焼肉屋(やきにくえん)で行う。値段の割にガッツリ美味しく頂けるので、良い店である。本日は晴れるのは昼だけという予報だったが、夕方まで富士山と南アルプスを望むことができた。名残惜しいが、M 原氏の運転で静岡へ。Y 川は翌 28 日の朝に飛行機で福岡に戻るので、この日は静岡に宿を取った。Y 川を静岡で降ろして、M 原氏は御前崎の宿舎へ。

本山行は弾丸ツアーであったが、全ての行程を問題なくこなすことができた。これは、M 原氏という優秀なパートナーに恵まれたお陰である。ありがとう。次はぜひ夏山に登ろう。M 原氏の一日も早い帰福を待っている。最後になりますが、本山行を支えてくださったピナクルの皆様、留守宅の S 藤さん、ありがとうございました。

注 1 南アルプス農鳥岳(大門沢コース)の入り口。

注 2 金峰山編 <https://www.youtube.com/channel/UCRfjx-cOMbGohqrtteCYAcw>

瑞牆山編 <https://youtu.be/3v9ilN1pdgA>

→ Youtube の Kei Montain Blog(注 3)で検索。

注 3 M 原氏のブログには、現在若干のふぐあいがあるようだが、近日改修予定とのことである。